

令和3年

6月 定例会

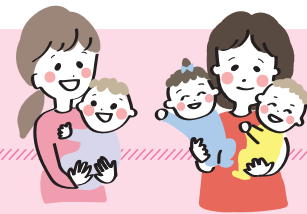
一般質問



質問1

京都府版母子健康手帳について

- ① 施策の一丁目一番地に子育て環境日本一を掲げる知事として、1期目の最終年に、「京都府版母子健康手帳」を作成すべきと考えますが、子育て環境日本一の取組の推進に母子手帳が果たす役割も踏まえた所見はどうか。
- ② 本府も低出生体重児を出産した精神的に辛い状態の保護者が読みやすく書き込みやすい、京都府版リトルベビーハンドブック作成を検討すべきと考えがどうか。



田中美貴子の提言が実現に向け動き出します



答弁1 市町村が交付する母子健康手帳に京都府の独自の視点を加えて、京都府全域で使用できるモデルとして「京都版母子健康手帳」を作成することは、妊産婦の皆様の利便性に寄与し、「子育て環境日本一」の実現に向けた京都府の取組をさらに進化させるものになると考えております。今後、市町村や専門家、子育て経験者などを交えしっかりと内容を検討し、全国に誇れる京都ならではの「子育て環境日本一手帳」を作成したい。

答弁2 「子育て環境日本一手帳」の一部とすることも含めて一体的に検討し、「たんぽぽ手帳」、「はぐくみノート」を通じ培ってきた知見に、リトルベビーハンドブックの考えを取り込み、当事者支援の一層の強化につなげていきたいと考えております。

質問2

フェムテックの推進について伺いたい

女性の特性を活かす事で企業や社会全体の豊かさを推進する、フェムテック産業が女性の様々な課題解決の希望の一つになると考える。今後のフェムテック産業の展開について、所見を伺いたい。

答弁 今後とも、フェムテックを始めQOL分野の産業振興を進め、女性をはじめ、様々な立場の方々が抱える課題解決を図り、誰もがいきいきと暮らせるダイバーシティの高い社会の実現を目指してまいります。



京都府民のみなさんと考えるひととき

命輝かせて

フォーラム

令和3年

開催日

7.16金 PM 18:30~

場所

パルティール京都

基調講演

板東 あけみ 国際母子手帳委員会事務局長

コーディネーター

田中 美貴子 京都府議会議員

講師

寺川 麻依子 高齢者施設向け出張カフェ「空」みんなのおうちカフェ・空 代表

大下 由起恵 夢・種発見ラボ 代表 居場所「広縁」

事業紹介

松本 行紀 この指とまれ 代表

参加者 リアル…60名 リモート…27名

基調講演 板東 あけみさん

母子手帳の役割については医療者に必要な情報を伝える大切な記録であり、生まれてくる命が愛され、守られていたという証。子どもが大きくなったときに、親の思いを知り自分の命の価値を知り、自己肯定感を高める一つの道標になるので母親の思いを書き込む必要がある。

また、母子手帳のサブブックとして、小さく生まれた赤ちゃんと家族のために作られた冊子「リトルベビーハンドブック」は日本でも新しい取り組みとなって広がりつつある。

6月京都府議会の一般質問において田中府議の質問を受け、京都府の前向きな回答を紹介の上今後の展開に期待を寄せる。

寺川麻依子さんは、自身の子育てで体験から、駆け込む場所の必要性を実感し、小倉町にカフェ・空(くう)を開設し、みんなが自分らしくいられる場所を提供している。

大下由起恵さんは、引きこもり・不登校当事者・家族、生きずさるを感じる人が安心して過ごせる居場所「広縁(ひろえん)」を小倉町に開設。「否定しない・されない場所」として相談や勉強会を開く活動をしている。

地域活動をしている個々のグループを繋ぐ支援をする目的で設立された「この指とまれ」代表の松本行紀さんは、次世代につなぎ、新たなネットワークを構築する為賛同者を募った。

コロナ禍において、安心・安全な集会を実現する為、入場者制限の上ハイブリッド形式での開催。命の記録としての母子手帳の意味合いに触れながら、社会的弱者を支援する団体・個人の活動等を紹介し、個々の活動を繋ぎ、社会で支えあいながら支援し「誰ひとり取り残さない」社会の実現に向けて発信した。



動画はコチラ



本編



ダイジェスト

ベビースペース

